

サグリ株式会社

所在地 兵庫県丹波市氷上町常楽 725-1

URL <https://sagri.tokyo/>

衛星データで農業課題を解決する

サグリ株式会社は、衛星データと機械学習を通じて、国内そして東南アジア・インドの農業課題を解決する兵庫県のベンチャー企業である。令和3年度には1.55億円の資金調達を発表し、週刊東洋経済「すごいベンチャー100」(2021)や、農林水産省「令和3年度農林水産業等研究分野における大学発ベンチャーの起業促進実証委託事業」の支援対象に選ばれた。

会社概要

◆ 事業概要

サグリ株式会社は、農業分野などに対して、衛星データや機械学習の技術を活用したサービスを提供している。主力のサービスは耕作放棄地を可視化する農業状況把握アプリ「ACTABA」である。ACTABAは、圃場ごとに耕作地と耕作放棄地の特徴をAIに学習させることによって、アルゴリズムを構築し、耕作放棄地である確率の予測結果を提示するシステムである。

ACTABAの主なターゲットは市町村の農業委員会である。農地法で毎年全ての農地を点検することが義務化されているが、ACTABAを用いることで各地域の農業委員会の委員である農家が目視で耕作放棄地を確認する作業をAIに託すことができ、労働者の負担を軽減することができる。

「スマート農業」に関連するサービスやアプリケーションを提供することで、農業の生産性を高め、日本のみならず世界中の農家の暮らしの質を向上させることに取り組んでいる。

【サグリ株式会社の企業名由来】



特徴・強み

◆ 強み・アピールポイント

サグリ株式会社の一番の強みは、現場の課題を解決する際に、既存の技術を使っていち早く再現できるアルゴリズムを作成するスピード感である。技術力だけの会社ではなく、メンバーの一人ひとりが事業に対する強い意思や想いを持っているからこそ、現場にある本質的な課題の根源を摘みに行き、それを随時サービスに反映させることができる。現場の状況を推測するモデルの構築に必要なデータを自ら動いて集めることができる。

AIも衛星データもただの道具に過ぎないが、それらをどう使うか、そしてその結果をどのように広げていくかを示せていることが強みである。

【ACTABA(アクタバ)】



起業に至った経緯

◆ 起業のきっかけ

代表取締役 CEO の坪井氏は、幼少期から宇宙が好きで中高生時は研究者になりたいという夢を持っていた。しかし、夢を追う自身が他者から理解されず、周りに馴染めない存在となっていた。

大学に入学して研究を始めた時、NPO 法人カタリバが行う、子供達に今までの人生経験を伝えるボランティア活動に参加した。その活動の中で、自身の中学・高校から大学の研究に至るまでのストーリーを語る機会があった。後に子供達から話を聞く座談会の中で、自分のやりたいことが分からなくなっている、または自分自身の人生に納得していないといった思いを持つ多くの人に出会った。この様な状況に遭遇し、自身の中高生時代と重なる部分があり、違和感を持った。日本には沢山のチャンスがあるが、それに手を伸ばそうとすると周りからの冷ややかな視線で妨げられてしまう。この状況を変えたいと思い、学生時代に宇宙をきっかけとして教育の場を創ろうと考えた。

日本国内で教育活動をしている内に、海外でも行う機会も得られるようになった。海外では日本と違った課題が見え、教育だけでは、その子供たちが持つ課題を解決することができないと感じた。日本で見た課題は、小学生の時に抱いていた夢が中高生になって周りと合わせるようになった時に、自分のやりたいことが分からなくなってしまうという状況だったが、海外では同様に子供たちは夢を持っているが、日本のように周りから潰される環境ではなく、親や育ちの環境の影響でそもそも中高にすら行けず、夢を追うチャンスが損失されているといった状況だった。

夢を持った子供達は親の手伝いで農家に就くことが多かったため、その農家がアナログな状況で農業を行っている以上、子供達の置かれた状況は変わらないと思った。これを機に、子供たちが持つ夢に対して挑戦を促すといった日本での教育方法では、海外の子供たちは救えないと考えた。

ある時、衛星データでこの課題を解決できる可能性があることに気が付いた。農業の状況がより良くなれば、次世代の子供たちが未来の仕事を農業に支配されず、農業以外の選択肢も与えられるチャンスが生まれると思った。以上の理由から、農業事業を立ち上げている。

将来展望

◆ 今後の事業展開

今後、サグリ株式会社は ACTABA の普及を土台として農業におけるデータプラットフォームの構築を目指し、個人農家に向けた営農サービスを展開していく。さらに、2019 年 7 月に提供が開始された国内農地の区画情報を教師データとして、画像認識 AI の技術による自動化を行うことで世界中の農地をデータ化することを目指している。このアプリケーションはグローバル展開も検討している。ただし、海外では日本の行政の様に全ての農地を管理している訳ではないため、求められるニーズは日本と異なると考えている。状況に合わせて対応していく。

また、土壌の状態や作物生育データを組み合わせることで、単に耕作地の状況を識別するだけでなく、農業の収量増加や業務効率向上に向けた営農サービスも提供していく。衛星データによる土壌解析技術を用いた土壌診断を行い、施肥量適正化による「肥料コスト削減」や土壌より生じる温室効果ガスの把握と削減という「地球環境改善」から着手し、植生解析による収量増加・環境に優しい農業を展開することにより、国内の農家のみならず、東南アジア諸国やインドを始めとする海外の農家の収益向上にも貢献することを目指す。

上場も視野に入れている。上場すれば、新しく挑戦する事業の説明責任を負うが、より多くの株主に説得する機会が生まれると考えている。そこを突破すれば、海外への事業展開も今以上に期待できると考えている。

【サグリ株式会社の役員集合写真】



(令和 4 年 2 月公表)